(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3666259号
(P3666259)
(45)発行日　平成17年6月29日(2005.6.29)　(24)登録日　平成17年4月15日(2005.4.15)

(51)Int.Cl.[7]	F I		
G06F 13/00	G06F	13/00	650B
G06F 3/00	G06F	13/00	354D
	G06F	13/00	355
	G06F	3/00	654A
	G06F	3/00	655A

請求項の数 5　(全 13 頁)

(21)出願番号　特願平10-237340
(22)出願日　平成10年8月24日(1998.8.24)
(65)公開番号　特開2000-66983(P2000-66983A)
(43)公開日　平成12年3月3日(2000.3.3)
審査請求日　平成13年7月5日(2001.7.5)

(73)特許権者　000005223
富士通株式会社
神奈川県川崎市中原区上小田中４丁目１番１号
(74)代理人　100109852
弁理士　岩田　茂
(72)発明者　岡田　純代
神奈川県川崎市中原区上小田中４丁目１番１号　富士通株式会社内
(72)発明者　村上　雅彦
神奈川県川崎市中原区上小田中４丁目１番１号　富士通株式会社内
(72)発明者　松本　安英
神奈川県川崎市中原区上小田中４丁目１番１号　富士通株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】メッセージ表示方法及び情報交換システム及び記憶媒体

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

端末装置を接続し通信を可能とする第１のネットワークに接続された利用者端末が第１のネットワークを介してメッセージの送受信を行うことが可能な情報交換システムにおいて、

情報交換システムは複数のサービス提供元からそれぞれに提供され、サービス提供元毎に第１のネットワーク上に論理的に構成される第２の論理ネットワークを有しており、利用者端末は複数の第２の論理ネットワークに接続可能であって、第２の論理ネットワーク毎に送受信したメッセージの表示を行うメッセージ表示領域を有するものであって、

前記複数の第２の論理ネットワークの各々において送受信されるメッセージを取得し、

前記取得したメッセージを前記第２の論理ネットワーク毎のメッセージとは独立して時系列に表示することを特徴とするメッセージ表示方法。

【請求項２】

端末装置を接続し通信を可能とする第１のネットワークに接続された利用者端末が第１のネットワークを介してメッセージの送受信を行うことが可能な情報交換システムにおいて、

情報交換システムは複数のサービス提供元からそれぞれに提供され、サービス提供元毎に第１のネットワーク上に論理的に構成される第２の論理ネットワークを有しており、利用者端末は複数の第２の論理ネットワークに接続可能であって、第２の論理ネットワーク毎に送受信したメッセージの表示を行うメッセージ表示領域を有するものであって、

前記複数の第２の論理ネットワークの各々において送受信されるメッセージを取得するメッセージ取得手段と、
前記取得したメッセージを前記第２の論理ネットワーク毎のメッセージ表示領域とは独立した領域に時系列に表示するメッセージ表示手段と
を有することを特徴とする情報交換システム。
【請求項３】
端末装置を接続し通信を可能とする第１のネットワークに接続された利用者端末が第１のネットワークを介してメッセージの送受信を行うことが可能な情報交換システムにおいて、
情報交換システムは複数のサービス提供元からそれぞれに提供され、サービス提供元毎に第１のネットワーク上に論理的に構成される第２の論理ネットワークを有しており、利用者端末は複数の第２の論理ネットワークに接続可能であって、第２の論理ネットワーク毎に送受信したメッセージの表示を行うメッセージ表示領域を有するものであって、
前記複数の第２の論理ネットワークの各々において送受信されるメッセージを取得するメッセージ取得手段と、
前記取得したメッセージを前記第２の論理ネットワーク毎のメッセージ表示領域とは独立した領域に時系列に表示するメッセージ表示手段と、
前記メッセージ表示手段により表示されたメッセージを特定してメッセージ送信の指示がなされた際に、前記特定されたメッセージの送信がなされた第２の論理ネットワークに対してメッセージの送信を行うメッセージ送信連携手段と
を有することを特徴とする情報交換システム。
【請求項４】
端末装置を接続し通信を可能とする第１のネットワークに接続された利用者端末が第１のネットワークを介してメッセージの送受信を行うためのプログラムがコンピュータで読み取り可能に記録された記憶媒体において、
情報交換システムは複数のサービス提供元からそれぞれに提供され、サービス提供元毎に第１のネットワーク上に論理的に構成される第２の論理ネットワークを有しており、利用者端末を複数の第２の論理ネットワーク上において共通にメッセージ交換可能に接続する機能と、第２の論理ネットワーク毎に送受信したメッセージの表示を行う機能とを実行するステップを有すると共に、更に、
前記複数の第２の論理ネットワークの各々において送受信されるメッセージを取得するステップと、
前記取得したメッセージを前記第２の論理ネットワーク毎のメッセージ表示領域とは独立した領域に時系列に表示するステップと、
を有することを特徴とする複数の第２の論理ネットワーク上での情報交換を実行するためのプログラムが記録された記憶媒体。
【請求項５】
端末装置を接続し通信を可能とする第１のネットワークに接続された利用者端末が第１のネットワークを介してメッセージの送受信を行うためのプログラムがコンピュータで読み取り可能に記録された記憶媒体において、
情報交換システムは複数のサービス提供元からそれぞれに提供され、サービス提供元毎に第１のネットワーク上に論理的に構成される第２の論理ネットワークを有しており、利用者端末を複数の第２の論理ネットワーク上において共通にメッセージ交換可能に接続する機能と、第２の論理ネットワーク毎に送受信したメッセージの表示を行う機能とを実行するステップを有すると共に、更に、
前記複数の第２の論理ネットワークの各々において送受信されるメッセージを取得するステップと、
前記取得したメッセージを前記第２の論理ネットワーク毎のメッセージ表示領域とは独立した領域に時系列に表示するステップと、
前記表示ステップにより表示されたメッセージを特定してメッセージ送信の指示がなさ

れた際に、前記特定されたメッセージの送信がなされた第２の論理ネットワークに対してメッセージの送信を行うステップと
を有することを特徴とする複数の第２の論理ネットワーク上での情報交換を実行するためのプログラムが記録された記憶媒体。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、ネットワークを介して複数の利用者がメッセージの送受信を行うことが可能な情報交換システムに関し、特にメッセージの表示方法の改良に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
近年、ネットワークの普及に伴い、複数の利用者が同一のネットワークを利用して相互にメッセージを送受信する情報交換システムが普及している。情報交換システムの一例としては、チャットシステムが挙げられる。これは、ＩＲＣ(RFC1459) などのプロトコルを利用して、複数の利用者が共通のコミュニケーションの場（前記、同一のネットワークと同義）を共有して、複数の利用者がメッセージの送受信を行うことを可能とし、共通のコミュニケーションの場に参加している利用者は、自己が発言したメッセージだけでなく、同一のコミュニケーションの場に参加している他の利用者が送信したメッセージの内容も参照することができる。つまり、参加している複数の利用者から送信されたメッセージを確認しながら、情報交換を行うことが可能となる。
【０００３】
このようなチャットシステムでの情報交換には、参加している利用者が必ずしも発言する必要はなく、その共通のコミュニケーションの場に参加して他の利用者から送信されるメッセージを参照しているだけでもよい。このために、チャットシステムを行うアプリケーションのインターフェースとして、発言を行うために参加するコミュニケーションの場と参照のみを目的として参加しているコミュニケーショの場を識別可能に表示し、参照しているコミュニケーションの場に発言されているメッセージの内容を監視しながら、発言を行うために参加しているコミュニケーションの場でのメッセージ送受信を行うことが可能なものが提供されている（特開平１０－１５４１１７号公報）。
【０００４】
特開平１０－１５４１１７号公報には、利用者が発言を行うために参加している場を主チャンネル、とりあえず参照することを目的として参加する場を従チャンネルとし、主チャンネル及び従チャンネルで発言された内容を表示装置上のそれぞれ別の領域に識別可能に表示し、主チャンネルの内容が表示される領域の近傍に主チャンネルに対してメッセージを送信するための発言領域を表示することが開示されている。従チャンネルには、利用者が指定したチャンネルで発言されたメッセージの内容が表示されている。ここで指定するチャンネルは複数指定可能である。
【０００５】
【発明が解決しようとする課題】
このようなチャットシステムでは、１対１の会話を行うことも可能である。この場合でも、会話相手毎に個別の共通のコミュニケーションの場（１つの共通のネットワーク）を設ける必要がある。また、このようなチャットシステムの利用者としてサービス提供機能を有するものを登録しておき、チャットシステムを介して種々のサービスを利用する仕組みも考案されている。そのサービスを受けるための依頼や回答を送受信するために、サービス提供機能を有する利用者の参加している共通のコミュニケーションの場に参加しておく必要がある。
【０００６】
このため、各利用者が興味を持った共通のコミュニケーションの場（共通のネットワーク、または、チャンネル）が増えるのみならず、１対１の会話を行う相手が増えるに応じて、また共通のコミュニケーションの場を介して利用するサービスが増えるに応じて、参照

する共通の場の指定は増加する。現在、ネットワークの普及に従って、この数は増加傾向にある。

【０００７】

つまり、参照を目的とする共通のコミュニケーションの場の数が増大し、それは従来例における従チャンネルの表示領域に表示される発言の量の増大を示している。また、現在のチャットシステムでは、その主たるサービス提供元が異なると、提供元毎に個別に接続が必要となる。これは、接続したサービス提供元に対応してメッセージの送受信を行うためのウィンドウが表示装置上に複数表示されることになり、他のアプリケーションの実行操作を行うための表示装置上の領域が狭められることになる。

【０００８】

本発明では、チャットシステムなどの情報交換システムにおいて、利用者が複数の共通のコミュニケーションの場に参加していても、表示装置上の表示領域を最小限にしつつ、発言を目的として参加している共通のコミュニケーションの場へメッセージを送信する際の操作性も低下させることの無い、使い勝手の良いインターフェースの提供を目的とする。

【０００９】

【課題を解決するための手段】

本発明は、基本的に発言を目的として参加している共通のコミュニケーションの場は１つであり、その他は参照を目的として参加している共通のコミュニケーションの場であることに着目した。つまり、利用者は、指定した共通のコミュニケーションの場で発言される内容が確認できればよいのである。また、必要に応じて表示された内容について、その発言がなされている共通のコミュニケーションの場に対して、簡単な操作で発言が行えることが実現できれば、なお良い訳である。

【００１０】

本発明は、チャットシステムなどのような情報交換システムにおいて、利用者が指定した１つあるいは複数の共通のコミュニケーションの場において送受信されたメッセージの内容を集約し独立して表示するメッセージ表示部を設けることにより、表示装置上の表示領域を狭めることを可能とする。さらには、メッセージ表示部に表示された発言を指示することにより、簡易に当該発言のなされた共通のコミュニケーションの場への発言を行うことを可能にする。

【００１１】

すなわち、本発明は、端末装置を接続し通信を可能とする第１のネットワークに接続された利用者端末が第１のネットワークを介してメッセージの送受信を行うことが可能な情報交換システムにおいて、情報交換システムは複数のサービス提供元からそれぞれに提供され、サービス提供元毎に第１のネットワーク上に論理的に構成される第２の論理ネットワークを有しており、利用者端末は複数の第２の論理ネットワークに接続可能であって、第２の論理ネットワーク毎に送受信したメッセージの表示を行うメッセージ表示領域を有するものであって、前記複数の第２の論理ネットワークの各々において送受信されるメッセージを取得し、前記取得したメッセージを前記第２の論理ネットワーク毎のメッセージとは独立して時系列に表示することを特徴とする。

【００１２】

【発明の実施の形態】

以下に、本発明を利用した情報交換システムの実施例を説明する。

図１に、本発明の基本構成図を示す。

本実施例では、複数の利用者端末10がネットワーク40を介して接続され、相互に通信可能となっている。なお、構成の詳細は１つの利用者端末に記載し、その他の利用者端末については、最低限の構成のみを記載している。

【００１３】

利用者端末10は、他の利用者端末10と同時かつリアルタイムにメッセージの送受信を行うためのチャットシステム30が動作可能である。チャットシステム30には、基本機能としてメッセージの送受信を制御するメッセージ受信部33およびメッセージ送信部34、動作状態

が設定された設定情報記憶部35を有し、さらに本願発明のメッセージ表示部20との連携機能として要求受信部31とメッセージ通知部32を有している。要求受信部31はメッセージ表示部20の連携要求送信部21やメッセージ送信処理部24から送出されてくる各種要求に応じて処理を行う。メッセージ通知部32は、メッセージ受信部33で受信したメッセージをメッセージ表示部20に転送する。

【００１４】

メッセージ表示部20は、連携要求送信部21、通知メッセージ受信部22，表示処理部23、メッセージ送信処理部24、および設定情報記憶部35からなる。

連携要求送信部21は、チャットシステム30とメッセージ表示部20を連携させるために必要な設定情報の送受信を行う。通知メッセージ受信部22は、チャットシステム30のメッセージ通知部32から送出されてきたメッセージを受信し、表示処理部23にて表示装置11に表示する。メッセージ送信処理部24は、メッセージ表示部20によって表示されている発言内容に対して利用者が発言を行おうとした際に、チャットシステム30と連動させたり、発言を直接行うためのインターフェースを表示する。

【００１５】

図２は、本発明によって表示装置11に表示される画面の一例を示している。

表示領域300 および表示領域310 は、チャットシステム30によって表示される画面の例である。ここでは、２つのチャットシステムのサービス提供元に接続しているため、ＩＲＣネットワークＡに接続しているチャットシステム30によって表示される表示領域300 、ＩＲＣネットワークＢに接続しているチャットシステム30によって表示される表示領域310 の２つのウィンドウが表示装置上に表示されている。ここで、ＩＲＣネットワークは、チャットシステムのサービス提供元単位に構成される論理的なネットワークを意味し、物理的なネットワークと異なっている。

【００１６】

各ＩＲＣネットワーク内には、さらに共通のコミュニケーションの場としてのチャンネルが複数存在している。以下、共通のコミュニケーションの場を「チャンネル」と称する。

チャットシステム30の表示領域300,310 は、各種操作をポインティングデバイス12などによって指示するツールバー表示部300-1,310-1 、発言可能なチャンネルを切り替えるチャンネル切り換え指示部300-2,310-2 、発言可能に切り替えられたチャンネル（以下、主チャンネルという）で送受信される発言を表示する主チャンネル表示部300-3,310-3 、主チャンネルへメッセージを送信する発言入力部300-5,310-5 、主チャンネルに接続している利用者が一覧表示される利用者一覧表示部300-4,310-4 、利用者が指定した他のチャンネル（以下、従チャンネルという）で送受信されている発言の内容を表示している従チャンネル表示部300-6,310-6 と、利用者が指定した主チャンネル及び従チャンネルが一覧表示されるチャンネル一覧表示部300-7,310-7 から構成されている。

【００１７】

表示領域200 は、メッセージ表示部20によって表示される画面の例である。ここでは、利用者がチャットシステムで接続しているＩＲＣネットワークＡのチャンネル#abc,#roadおよびＩＲＣネットワークＢのチャンネル#kobe,#lab,#testにおいて送受信された発言が時系列に表示されている。

では、メッセージ表示部20によって、チャットシステムを利用して複数のチャンネルでの送受信される発言を一元的に表示する処理を説明する。

【００１８】

まず、メッセージ表示部20とチャットシステム30を連携するための設定処理から説明する。メッセージ表示部20が起動されると、連携要求送信部21を起動し（図３のステップS2100)、チャットシステム30に対して、連携要求（例えば、REPORT-MESSAGEというコマンド）を送出する（図３のステップS2101)。チャットシステム30の要求受信部31は、メッセージ表示部20からの連携要求であるかを判断し、連携要求（例えば、REPORT-MESSAGEというコマンド）であれば（図４のステップS3101 でYES の場合）、設定情報記憶部35の連携フラグを有効にする（図４のステップS3102)。これにより、チャットシステム30とメッセージ

表示部20の間にチャットシステム30で送受信した発言の内容が自動的に送信されるパスが張られたことになり、これ以後、チャットシステム30のメッセージ受信部33で受信されたメッセージおよびメッセージ送信部34で送信したメッセージは、メッセージ通知部32を介して、メッセージ表示部20にも通知される。

【００１９】

今、チャットシステムにおいて、ある利用者端末10から発言がなされたとする。発言された内容は、当該利用者が発言したＩＲＣネットワーク名、チャンネル名、発言者名とともに、ネットワークに送出され、同じチャンネルに参加している利用者に対して同報される。この仕組みについては、チャットシステムの一般的な事項であり、詳細の説明は省略する。

【００２０】

メッセージ受信部33は、その発言を受信すると、主チャンネル表示部300-2 あるいは従チャンネル表示部300-6 にその内容を表示するとともに、メッセージ通知部32を介してメッセージ表示部20に受信した発言を通知する。

メッセージ表示部20の通知メッセージ受信部22は、チャットシステム30からメッセージ通知があったかを監視し（図５のステップS2201)、メッセージの通知を確認すると（図５のステップS2201 でYES の場合）、表示処理部23を介してメッセージを表示する（図５のステップS2203)。

【００２１】

表示処理部23は、通知メッセージ受信部22を介して受信したメッセージを、利用者の所望の形式に加工して（図６のステップS2301)、表示装置11へ出力する。

メッセージの加工方法としては、いくつかの方法がある。

まず、１つは、受信したメッセージは、ＩＲＣネットワーク名、チャンネル名、利用者名（ニックネームとも言う）、発言時間および発言内容から構成されている。このうち、利用者名と発言内容だけを表示させるなど、表示項目を選択する方法がある。これにより、表示領域200 の幅を狭くすることが可能になり、表示装置11に表示される面積の削減につながり、チャットシステムと他のアプリケーションを同時に使用する際に、他のアプリケーションの動作による画面表示領域が拡大でき、他のアプリケーションの操作も便利になる。

【００２２】

もう１つの方法としては、ある特定の条件に合致するメッセージを他のメッセージと区別できるように表示することが挙げられる。区別して表示するとは、例えば、太字や斜体など他のメッセージとは字体を変える、当該メッセージを反転あるいは点滅表示するなど、時系列に表示される複数のメッセージの中から当該メッセージが視覚的に識別可能に表示されることを意味する。

【００２３】

ある特定の条件としては、メッセージ中に含まれるキーワード、例えば、ＩＲＣネットワーク名、チャンネル名、利用者名（ニックネーム）、利用者が指定した任意の文字列や、発言時刻などがある。利用者は、他のメッセージと識別可能に表示したいメッセージ時に含まれるキーワード及び表示方法をメッセージ表示部20の設定情報記憶部25に登録しておくことにより、チャットシステム30からメッセージが通知されてきた際に、設定情報記憶部25に登録されているキーワードがメッセージ中に含まれるかどうかを検査し、キーワードが含まれている場合には指定された表示方法に基づいてメッセージを編集して表示装置11に表示する。

【００２４】

また、常に最新の１０行を、あるいは、特定の時間帯の発言だけを識別可能に表示するようにしてもよい。

これにより、表示領域200 に表示されるメッセージのうち、特に利用者が注目している発言を容易に判別することが可能である。

さらにもう１つの方法としては、表示するメッセージを取捨選択する方法がある。

【００２５】
取捨選択する方式としては、メッセージ中に含まれるキーワードに基づいて行われることが考えられる。キーワードとしては、ＩＲＣネットワーク名、チャンネル名、利用者名（ニックネーム）、利用者が指定した任意の文字列などがある。利用者は、表示対象とするメッセージ時に含まれるキーワードをメッセージ表示部20の設定情報記憶部25に登録しておくことにより、チャットシステム30からメッセージが通知されてきた際に、設定情報記憶部25に登録されているキーワードがメッセージ中に含まれるかどうかを検査し、キーワードが含まれている場合のみメッセージを編集して表示装置11に表示する。本発明では、利用者が接続しているすべてのチャンネルでの発言内容がチャットシステム30から通知され、一元的に表示されるため、接続しているチャンネルの数に比例して通知されてくるメッセージの量は増大する。メッセージを取捨選択して表示することにより、利用者がより注目しているメッセージのみが表示されることになり、表示領域200 の削減とともに、利用者のメッセージの確認が容易になる。
【００２６】
ここで、設定情報記憶部25に設定される設定情報は、メッセージ表示部20から連携要求を送出した際に、チャットシステム30において、連携フラグを有効にすると共に、チャットシステム30において登録されている設定情報記憶部35の内容をメッセージ表示部20に送出するようにし、メッセージ表示部20では受信した情報を設定情報記憶部25に格納しておくようにする。あるいは、メッセージ表示部20に設定手段を設け、チャットシステム30とは、独立にメッセージを表示する際の加工方法を指定するようにしてもよい。
【００２７】
以上により、利用者が複数のチャンネルに接続してチャットシステムを利用している際に、接続しているすべてのチャンネルでの発言が同一の表示領域に時系列に表示可能となる。
次に、同一領域に表示された発言内容を利用して、当該発言がなされているチャンネルへ発言する手順を説明する。
【００２８】
まず、１つの方法として、表示領域200 に表示している発言内容を指示することにより、チャットシステム30の表示領域300 の主チャンネルを当該発言のチャンネルに切り換え、発言入力部300-5 から発言可能となる方法を説明する。
ある利用者端末10の表示装置11に、メッセージ表示部20およびチャットシステム30からの図７のような表示がなされていたとする。利用者は、ＩＲＣネットワークＡのチャンネル#test,#kobe と、ＩＲＣネットワークＢのチャンネル#road,#abcに接続されており、表示領域200 にはそれらのチャンネルで発言された内容が時系列に表示されている。表示領域300 は、ＩＲＣネットワークＢに接続されているチャットシステム30の操作画面のみが活性化されて表示されている。また、この時点では、チャンネル#road を主チャンネルとしている。ＩＲＣネットワークＡに接続されているチャットシステム30の表示画面は活性化されておらず、利用者あるいは他のアプリケーションからの何らかの指示により活性化され同様に表示されるようになっている。
【００２９】
さて、ここで、利用者は表示領域200 の表示されたメッセージの中で、下から２行目に表示されているメッセージに対して関心を示し、そのチャンネルで発言を行おうとしていることを想定する。
利用者は、表示領域200 の当該メッセージをポインティングデバイスなどによって特定し、例えばマウスのダブルクリックを行う（ここでの、マウスのダブルクリックは、一例であり、他のキー操作によって行われても良い）。メッセージ送信処理部24はマウスのダブルクリックをチャットシステムへの切り換え指示として検知すると（図９のステップS2410 でYES の場合）、前述の特定されたメッセージの内容を解析して、ＩＲＣネットワーク名（ここでは，ＩＲＣネットワークＢ）およびチャンネル名（ここでは、#abc）を取得する(図９のステップS2411)。取得したＩＲＣネットワーク名、チャンネル名を使用して、

チャットシステム30に対して、主チャンネルの切り換え指示（例えば、joinコマンド）を生成し、チャットシステム30に送出する（図９ステップS2412)。チャットシステム30は、メッセージ表示部20から送出されてきた主チャンネル切り換え指示を受信すると、切り換え指示と共に送出されてきたＩＲＣネットワーク（ここでは、ＩＲＣネットワークＢ）の接続されているチャットシステム30の主チャンネルを切り換え指示と共に送出されてきたチャンネル（ここでは、#abc）に切り替える。切り替えた後の状態を図８に示す。チャンネル切り換え指示部300-2 に送出されてきたチャンネル名（ここでは、#abc）が設定され、主チャンネル表示部300-3 の内容も、チャンネル#abcでの発言内容の表示に切り替わり、従チャンネル表示部300-6 には、図７において主チャンネル表示部に表示されていたチャンネル#road の内容が表示されるようになっている。この際、当該ＩＲＣネットワークが接続されたチャットシステム30の表示領域300,310 が活性化されていない場合は、表示領域を活性化する。

【００３０】

これにより、メッセージ表示部20より一元的に表示されている発言を指示するだけで、当該発言がなされたチャンネルへの発言が可能な状態になったチャットシステム30の表示画面が自動的に表示され、利用者は当該チャンネルへ即座に発言を行うことが可能となる。

もう１つの方法として、表示領域200 において、直接発言を行う方法を説明する。

【００３１】

図１０は、チャットシステム30の表示領域は全て活性化されておらず、メッセージ表示部20の表示領域200 のみが活性化されている状態である。

ここで、下から２行目に表示されている発言がなされているチャンネルへ、メッセージ表示領域から直接発言することを想定する。

利用者は、表示領域200 の当該メッセージをポインティングデバイスなどによって特定し、例えばキーボードのコントロールキーの押下とマウスの右ボタンのクリックを同時に行う（ここでの、キー操作も一例であり、他のキー操作によって行われても良い）。メッセージ送信処理部24はコントロールキーの押下とマウスの右ボタンのクリックが同時に行なわれたことを発言ウィンドウの表示切り換え指示として検知すると（図９のステップS2420 でYES の場合）、表示領域200 に発言ウィンドウ210(図11）を表示する（図９のステップS2421)。利用者は、表示された発言ウィンドウ210 に発言したい内容を入力する。発言内容の入力が完了したら（図９のステップS2422 でYES の場合）、前記指示したメッセージを解析して、ＩＲＣネットワーク名（ここでは、ＩＲＣネットワークＢ）およびチャンネル名（ここでは、#abc）を取得し、さらに自己の利用者名（ニックネーム）と、入力された発言内容から、メッセージ送信指示（例えば、privmsg コマンド）を生成し、チャットシステム30へ送出する。

【００３２】

チャットシステム30は、メッセージ表示部20から送出されてきたメッセージ送信指示を受信すると、当該ＩＲＣネットワークの当該チャンネルに対して、発言内容を通知する。

これにより、メッセージ表示部20より一元的に表示されている発言を指示するだけで、当該発言がなされたチャンネルへの直接発言を行うことが可能となる。

＜その他の実施例＞

本実施例では、チャットシステム30で送受信されるメッセージはすべてメッセージ表示部20に通知されることを前提にして説明を行ったが、連携するＩＲＣネットワークやチャンネルを特定するようにしてもよい。この場合、連携要求送信部30は連携するＩＲＣネットワーク名やチャンネル名を指定するように利用者に促す画面を表示し、利用者によって指定されたＩＲＣネットワーク名およびチャンネル名をチャットシステム30に通知する。チャットシステム30の要求受信部は、通知されてきたＩＲＣネットワーク名とチャンネル名を設定情報記憶部35に登録する。これ以後、メッセージ受信部33あるいはメッセージ通知部32は、メッセージを受信した際に、当該メッセージの発言されたＩＲＣネットワークおよびチャンネルを判断し、連携の対象となっているもののみメッセージ通知部32を介してメッセージ表示部20に対してメッセージを通知する。これにより、ＩＲＣネットワーク名

やチャンネル名をキーワードとしたメッセージの取捨選択をチャットシステム側で事前に行うことになる。

【００３３】

また、本実施例では、メッセージ表示部20において、メッセージを表示する際の加工方法を設定することを想定して説明しているが、チャットシステム30側でそのような機能を有するようにし、メッセージ表示部20はチャットシステム30で所定の表示形態に加工された状態でメッセージを受信し、メッセージ表示部20の表示領域200 にそのまま表示するようにしてもよい。

【００３４】

【発明の効果】

本発明により、利用者が複数のネットワークを介してメッセージの送受信可能な情報交換システムにおいて、利用者の接続するネットワークが増大しても、発言の内容を同一の領域に集約して表示することにより、情報交換システムでの発言を表示する領域を最小限にして、表示装置上の他のアプリケーションの動作領域をより拡大して、利用者が利用者端末で他の利用者との情報交換を行いながら効率的に複数の操作を行うことが可能となる。

【００３５】

また、集約されて表示された発言を指示することにより、直接当該発言のなされたネットワークへ発言を行うことを可能とすることにより、メッセージ表示部と情報交換システムの基本機能の処理画面との切り換えを利用者が意識して行う必要がなく、発言を行う際の操作性も向上する。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の基本構成を示す図

【図２】表示装置に表示された画面の例を示す図

【図３】連携要求送信部の処理の内容を示すフローチャート

【図４】要求受信部の処理の内容を示すフローチャート

【図５】通知メッセージ受信部の処理の内容を示すフローチャート

【図６】表示処理部の処理の内容を示すフローチャート

【図７】メッセージ送信の指示を行う第１の実施例における表示画面の例を示す図（その１）

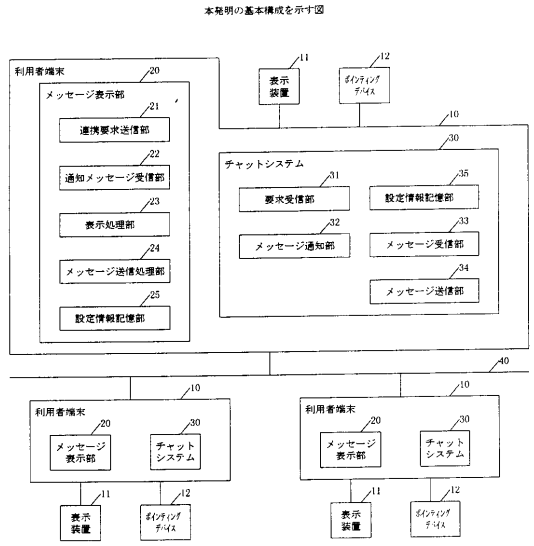
【図８】メッセージ送信の指示を行う第１の実施例における表示画面の例を示す図（その２）

【図９】メッセージ送信処理部の処理の内容を示すフローチャート

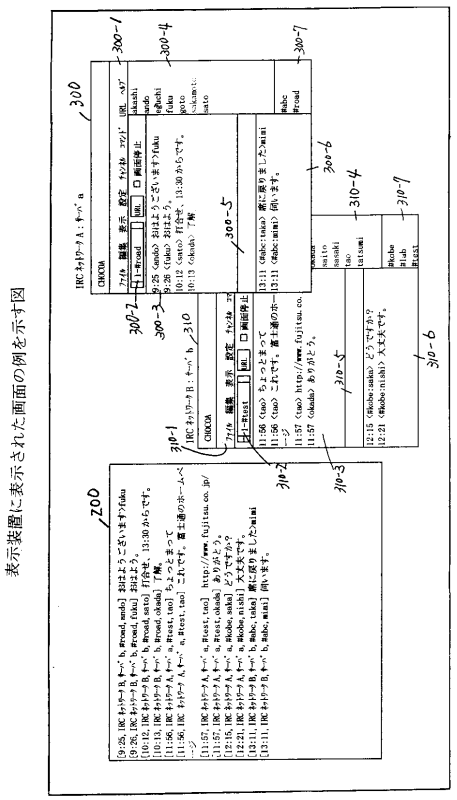
【図１０】メッセージ送信の指示を行う第２の実施例における表示画面の例を示す図（その１）

【図１１】メッセージ送信の指示を行う第２の実施例における表示画面の例を示す図（その２）

【図１】

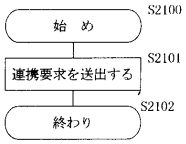


【図２】



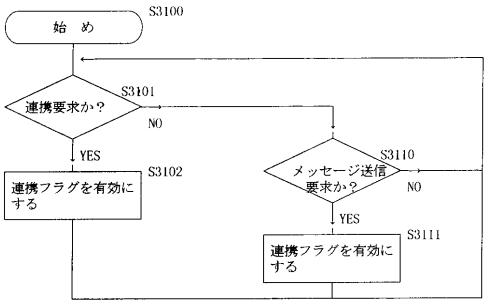
【図３】

連携要求送信部の処理の内容を示すフローチャート



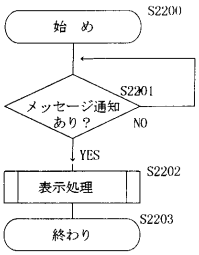
【図４】

要求受信部の処理の内容を示すフローチャート



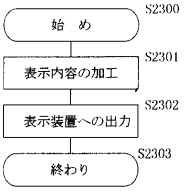
【図５】

通知メッセージ受信部の処理の内容を示すフローチャート



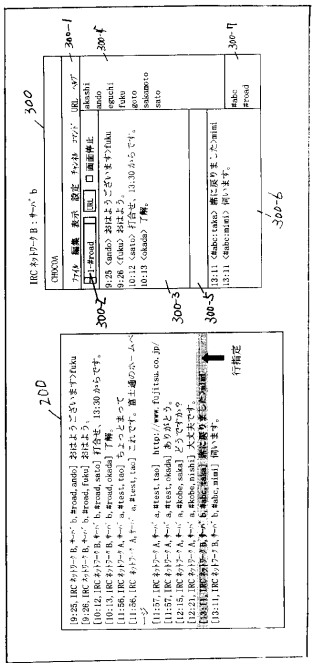
【図６】

表示処理部の処理の内容を示すフローチャート



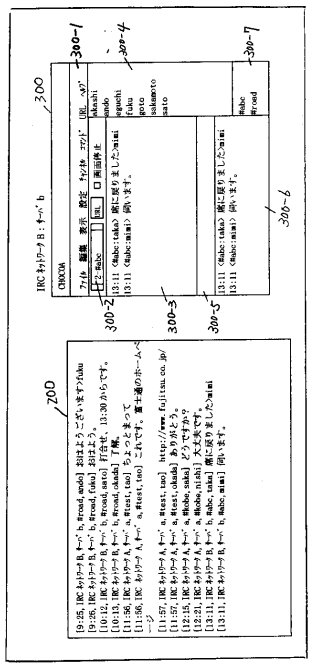
【図７】

メッセージ送信の指示を行う第１の実施例における表示画面の例を示す図（その１）



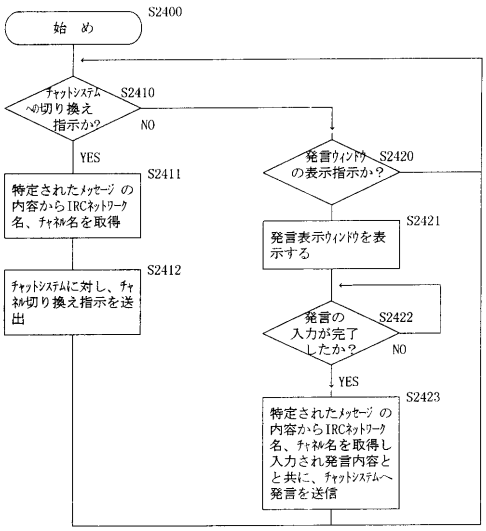
【図８】

メッセージ送信の指示を行う第１の実施例における表示画面の例を示す図（その２）



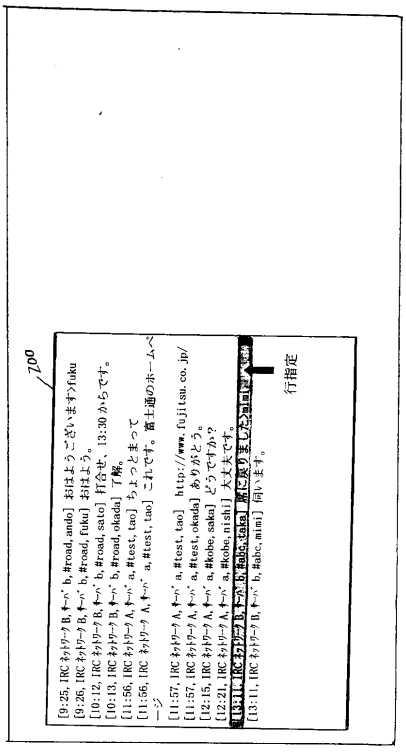
【図９】

メッセージ送信処理部の処理の内容を示すフローチャート

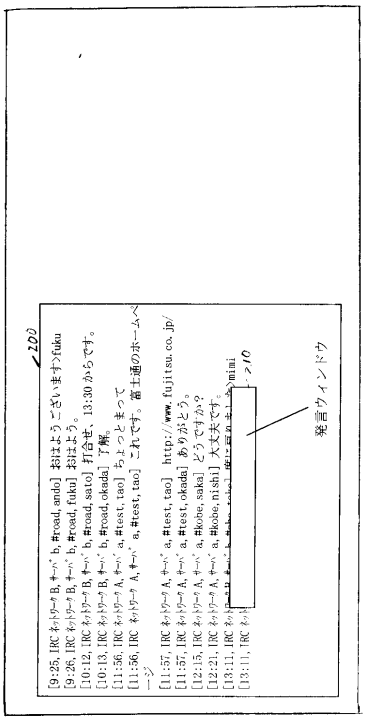


【図１０】

メッセージ送信の指示を行う第２の実施例における表示画面の例を示す図（その１）



【図１１】


メッセージ送信の指示を行う第２の実施例における表示画面の例を示す図（その２）
200
[9:25, IRC ネットワーク B, #ｸﾙｰ b, #road,ando] おはようございます!fuku
[9:26, IRC ネットワーク B, #ｸﾙｰ b, #road,fuku] おはよう。
[10:12, IRC ネットワーク B, #ｸﾙｰ b, #road,sato] 打合せ、13:30 からです。
[10:13, IRC ネットワーク B, #ｸﾙｰ b, #road,okada] 了解。
[11:56, IRC ネットワーク A, #ｸﾙｰ a, #test,tao] ちょっとまって
[11:56, IRC ネットワーク A, #ｸﾙｰ a, #test,tao] これです。富士通のホームページ
[11:57, IRC ネットワーク A, #ｸﾙｰ a, #test,tao] http://www.fujitsu.co.jp/
[11:57, IRC ネットワーク A, #ｸﾙｰ a, #test,okada] ありがとう。
[12:15, IRC ネットワーク A, #ｸﾙｰ a, #kobe,saka] どうですか？
[12:21, IRC ネットワーク A, #ｸﾙｰ a, #kobe,nishi] 大丈夫です。
[13:11, IRC ネットワーク B, #ｸﾙｰ b, #kobe,saka] 明日の打ち合わせmimi
[13:11, IRC ネットワーク
210
発言ウィンドウ

フロントページの続き

(72)発明者　木原　英人
神奈川県川崎市中原区上小田中４丁目１番１号　富士通株式会社内

審査官　鈴木　匡明

(56)参考文献　特開平１０－１５４１１７（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
G06F 13/00
G06F 3/00